

2014年度特別研究期間 研究成果概要

所属・職・氏名： 国際学部・教授・ 櫻田 大造

研究課題：国際関係事情の研究と日本を取り巻く大学事情の研究

研究期間：2014年4月1日～2015年3月31日

研究成果概要（日本文（全角）の場合は2,000字程度）

2014年度の特別研究期間の研究として、上記「国際関係事情の研究と日本を取り巻く大学事情の研究」という2つのテーマに関して、1年間の研究活動に従事した。その結果、目に見える研究成果として、これまでにすでに発刊されたり、実績として記録が残っているものを主に説明し、なおかつ、今後の発表可能な事柄（計画）についても触れていきたい。

まず、「日本を取り巻く大学事情の研究」については、雑誌『中央公論』2014年8月号に掲載された大学教授についてのエッセイ「優雅？悲惨？大学教授の生活ぶっちゃけ話」を指摘したい。内容的には取材や資料収集に基づいて、現在の理系と文系の大学教授や大学学部長の生活が、牧歌的時代ではなくなり、多忙さを増していることを書いたものであるが、SNSなどで色々な反響を得ている。学術的な内容ではなく、あくまでもエッセイではあるが、21世紀の大学教授生活のルポルタージュとしても読むことができる内容だと考えている。今後のテーマとしては、引き続き、日本を取り巻く大学事情の特異性（国際比較を含む）を研究していきたいが、同時に、大学新生向けのスタディ・スキルとライティング・スキルを簡潔に提示し、それをアップデートしたテキスト執筆なども視野に入れている。

次に「国際関係事情の研究」であるが、過去15年以上にわたり、継続しているメディア出演活動が指摘できよう。筆者は、毎月原則第三月曜日に信越放送（SBC）のラジオ番組「モーニングワイドラジオ J」に国際問題コメンテーターとして、出演している。8分程度の主に電話によるトークであるが、英国の政治状況から海外旅行による異文化理解まで、幅広い国際的テーマについて、アナウンサーとのやりとりを続けている。なお、この放送局のスタジオは長野市にあるために、現地に出向いての、取材・打ち合わせ・事前収録なども、この特別研究期間中に1回実施した。推定で数千人規模のリスナーがいるとされている。

さらに、「国際関係事情の研究」の1つの成果としては、上智大学アメリカ・カナダ研究所が年に1回発刊している学術雑誌『アメリカ・カナダ研究 (*The Journal of American and Canadian Studies*)』32巻（2014年）に、19頁の単著学術論文「2006年 NORAD [北米航空宇宙防衛司令部] 協定改定とカナダ (*The 2006 North American Aerospace Defense Command {NORAD} Renewal and Canada*)」を発表した。この拙稿は、二人の匿名査読者による厳格な査読を経た後に掲載された、査読付き論文である。

その内容は、2006年のNORAD（ノーラッド）協定の改定に焦点を当てた。現在に至るまでで最新の改定となり、「沿海警備 (maritime warning)」の任務を入れ、それまでは、5年や10年の任期付きで更新・改定されてきたNORADが、自動更新方式で合意した米加両国の政治過程を、資料や取材に基づき、詳細に記述した。その結果、この事例はカナダのマーティン (Paul Martin, Jr.) 自由党政権が対米交渉をはじめ、ハーパー (Stephen Harper) 保守党政権で完結した NORAD 協定の改定作業であり、実質的には少数与党政権だった保守党と野党第一党だった自由党や第

二党のブロック・ケベコワの大多数が賛成することで、一見問題なく実現したが、新民主党などによる反対もカナダ議会（下院）ではあったことも、その理由と共に指摘した。米国はブッシュ(George W. Bush)政権が完全に賛成していたのみならず、米議会での証言でも、賛成意見が顕著で問題が無いとみられていたことも拙稿でつけ加えている。また、NORAD に関する邦語文献はほとんどない状況からも、国際関係事情やカナダ・アメリカ関係史の一側面に光を当てた、ユニークな拙稿となった。

なお、NORAD については、2014年度のみならず、2015年度にかけても研究を継続しており、2015年3月24日から4月10日にかけて、カナダのトロント市とキングストン市を調査旅行の一環として訪問し、NORAD 研究の第一人者である Royal Military College of Canada のソコルスキー(Joel Sokolsky)教授や Canadian Forces College のチャプニック(Adam Chapnick)博士、ミッチェル(Paul Mitchell) 教授などへの取材や意見交換などを実施し、現地での情報収集にも当たっている。筆者はこれまでに、NORAD の設立(1957~58年)について一次資料に基づく、厳格な査読付き論文を『国際安全保障』誌にて、2013年度に発表している(櫻田大造「カナダはなぜ NORAD を設立したのか? 加米関係史の一考察」)。このように2013年度から継続している、国際関係事情の研究としても、今後、特別研究期間とその後の個人研究費を使用した研究成果として、邦語で最初の書籍の形などをとり、NORAD 研究をまとめていきたいと計画している。

研究成果概要は、データは gakunai@kwansei.ac.jp まで提出してください。